

北海道大学のキャンパスイメージに関するアンケート結果

施設・環境計画室

(マスタープラン実現タスクフォース)

本学では、第2期中期目標・中期計画において、「世界水準の教育・研究を支える高度なキャンパス及び環境配慮型キャンパス整備を推進する」ことを目標として、『キャンパスマスタープラン2006』に基づき施設整備を推進することを掲げている。

具体的な取り組みとして、「パブリックスペース拠点の整備計画を策定する」こととしている。策定にあたっては、施設の実態調査を行うと共に、施設の利用者等の意見等を聞くことは不可欠なことであり、アンケートを通してその意識調査を行った。

アンケートは、本学への来訪者がキャンパスに何を目的として訪れ、どこをどのように使っているのか、そして施設の整備では、何を期待しているのかということ进行调查した。調査は、以下のとおり大学の四季に応じて訪れる方々を対象として4回に分けて行った。

区分（関連行事等）

| | | | |
|-----|----------------|----------------|-----|
| 1回目 | 26秋（イチョウ並木開放） | 平成26年10月30～31日 | 2日間 |
| 2回目 | 27冬（札幌雪祭り） | 平成27年 2月 5～6日 | 2日間 |
| 3回目 | 27春（構内のサクラが開花） | 平成27年 4月28～29日 | 2日間 |
| 4回目 | 27夏（夏休み・観光客多数） | 平成27年 8月 6～7日 | 2日間 |

集計結果から全体としては、本学キャンパスの認知度は非常に高く、好印象を持たれており、パブリックスペース拠点の整備を推進すべきであることが再確認された。

※調査場所、調査方法並びにアンケート内容等の詳細については
[詳細] をご覧いただきたい。

[Downloads](#)



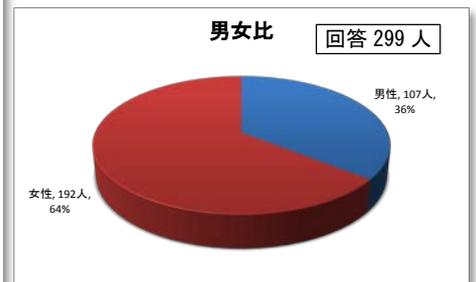
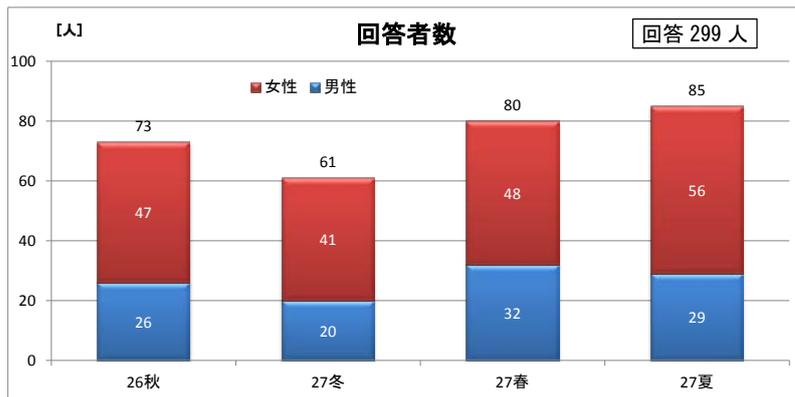
調査中の様子（26秋・イチョウ並木にて）

※パブリックスペースとは・・・学生、研究者等のための思索やリフレッシュの場であるとともに、地域社会、産業界等との接点として機能する公共性・社会性のある空間として、人間性・文化性に配慮した潤いある場。将来にわたって継承していくことが重要。

北海道大学におこしいただいた方々 (アンケートに回答いただいた方々)

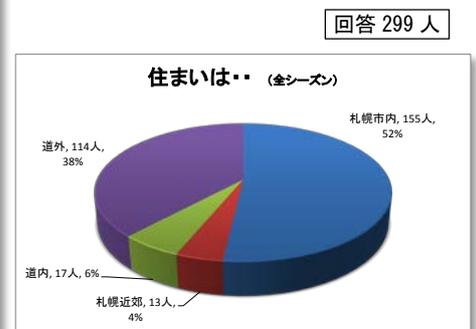
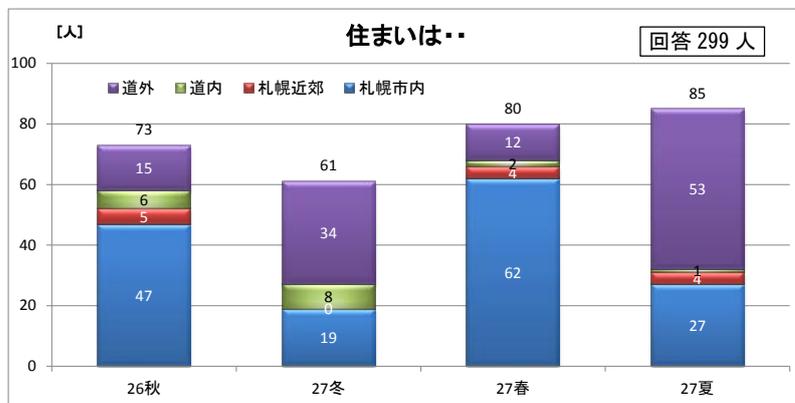
○男女別, 年代別

4回のアンケート実施で合計299名から回答をいただいた。
約40%が男性, 約60%が女性。



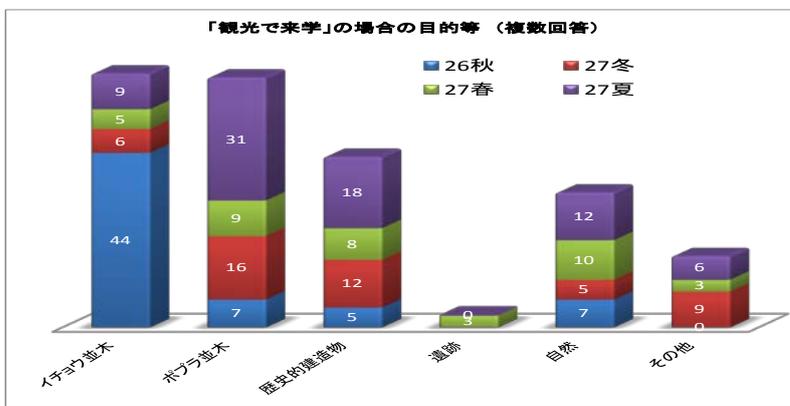
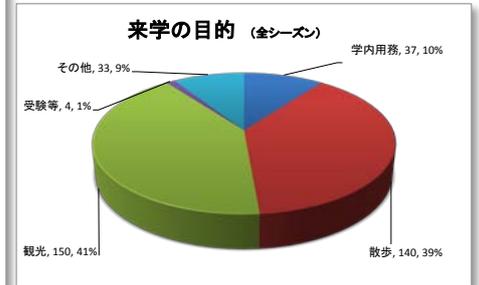
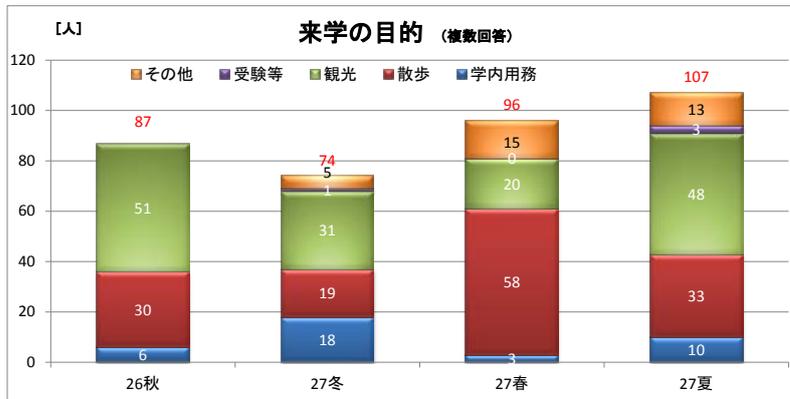
○どこからおこしいただいたか

4回のアンケート実施では, 約50%が札幌市内, 約40%が道外。



北海道大学におこしいただいた目的

4回のアンケート実施で来学の目的が、「散歩」及び「観光」と答えたのは全体の約80%を占めていた。その場所は、イチョウ並木、ポプラ並木及び歴史的建造物で大半を占めている。

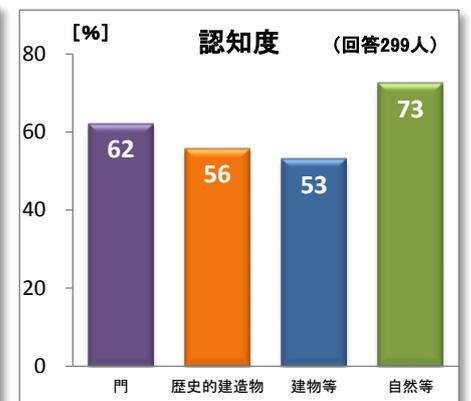
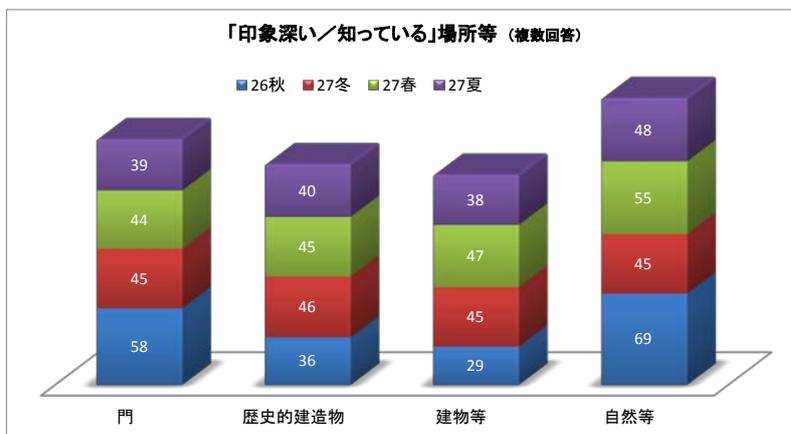


人気スポットと来訪者

| 季節 | 1位 | 多い来訪者 |
|-----|--------|-------|
| 26秋 | イチョウ並木 | 市内 |
| 27冬 | ポプラ並木 | 道外 |
| 27春 | 自然 (桜) | 市内 |
| 27夏 | ポプラ並木 | 道外 |

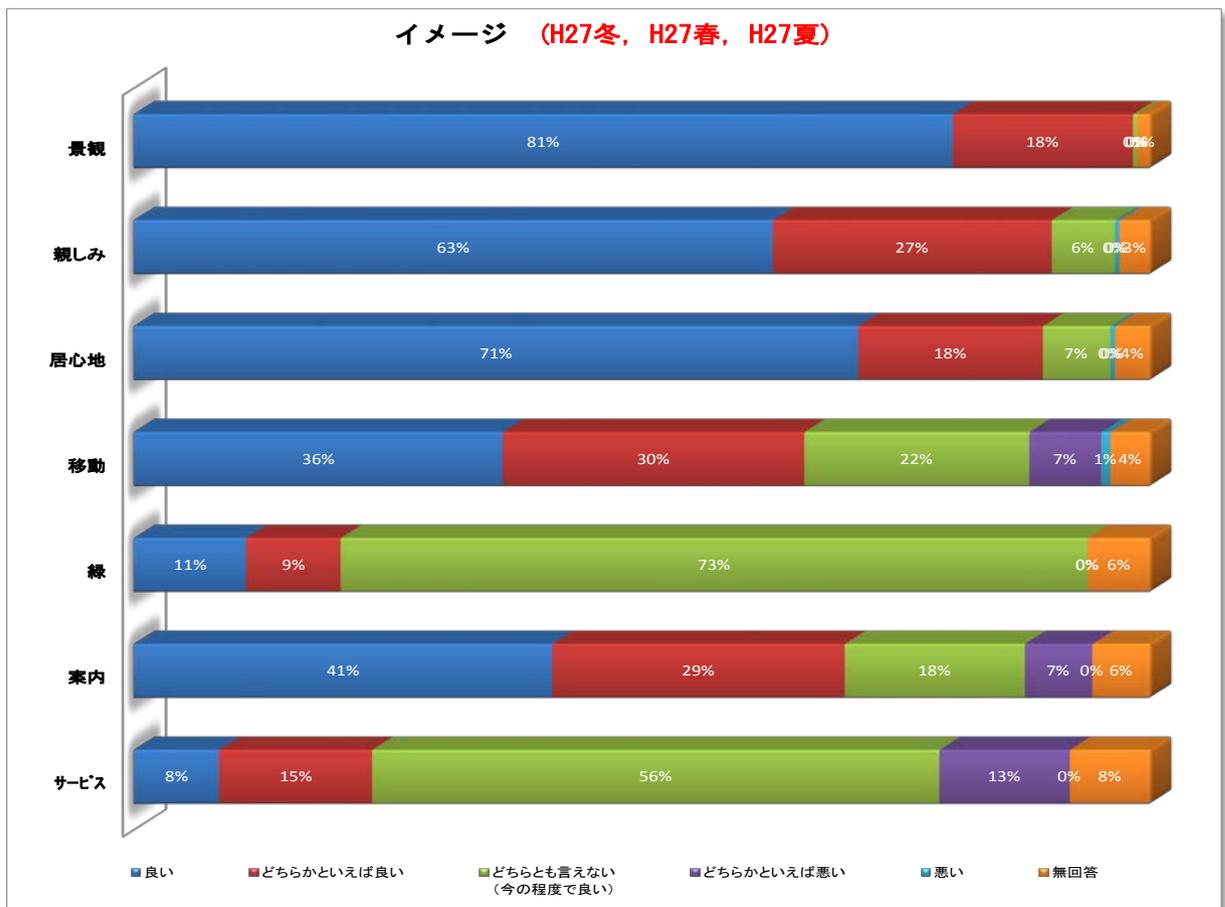
北海道大学で印象深かったところ

どの場所に印象深かったか、あるいは知っている場所等について、4つのカテゴリー（[門]、[歴史的建造物]、[建物等]、[自然等]）に分けて聞いているが、[自然等] や [門] について認知度が高かった。



北海道大学のイメージ

全ての項目で“好印象”であった。



北海道大学のイメージアップ

ベンチの設置や休憩ができるインフォメーションセンターの増設という意見があった。構内に意外と車両が多いとか、構内の雰囲気に合わせて交通量の少ない道路が良いという感想、意見があった。

わかりやすい看板の設置、循環バスの利用を望む声があった。

